

平成 30 年度 社会科 巡検報告



期間：8月22日(水)~8月23(木) 場所：男鹿周辺

〔8月22日〕

- 8：30 秋田大学集合・出発
- 9：20 男鹿ジオパーク学習センター到着・活動
- 11：00 男鹿ジオパーク学習センター出発
- 12：20 昼食
- 13：00 赤神神社五社堂到着・活動
- 15：00 赤神神社出発
- 15：15 加茂青砂海岸到着・活動
- 15：40 加茂青砂海岸出発
- 15：55 男鹿水族館 GAO 到着・活動
- 16：10 GAO 出発
- 16：20 萬盛閣到着・休息

〔8月23日〕

- 8：00 起床・朝食
- 9：00 萬盛閣出発
- 9：10 なまはげ館到着・活動
- 10：40 なまはげ館出発、近くにある真山神社へ
- 12：00 真山神社出発・軽く昼食
- 13：00 大潟村干拓博物館到着・活動
- 14：00 大潟村干拓博物館出発
- 15：00 秋田大学到着



役割分担

- ・会計係 佐藤 望 宮本 晃徳
- ・施設予約兼昼食係 齋藤 和也 櫻田 哲史 野口 愛
- ・しおり係 大堤 光 木村 純樹 佐藤 拓斗

一人当たりの費用

- ・宿泊代（夕食、朝食付き）先生方 10000円 学生 8250円
- ・なまはげ館真山伝承館 入場料 800円 ・大瀧村干拓博物館
入場料 300円

宿について

網元の宿 男鹿萬盛閣

- ♠ 設備・備品 テレビ・ウォシュレット・冷蔵庫・金庫・タオル・バスタオル・歯ブラシ
電話番号：0185-33-3161 住所：男鹿市北浦湯本字草木原63-2

施設一覧

- ♠ 男鹿ジオパーク学習センター 住所：男鹿市角間崎家ノ下452
電話番号：0185-46-4110 入場料：無料
- 赤神神社 五社堂 住所：男鹿市船川港本山門前字祓川35
電話番号：018-833-7132

なまはげ館 住所：男鹿市北浦真山水喰沢

電話番号：0185-22-5050 入場料：800円（真山伝承館と共同）

真山神社 住所：男鹿市北浦真山水喰沢 97

電話番号：0185-33-3033

大瀧村干拓博物館 住所：南秋田郡大瀧村西5丁目2

電話番号：0185-22-4113 入場料：無料

社会科巡検 なまはげレポート

学籍番号 1517011 木村 純樹

なまはげ概要

なまはげ行事はかつて、小正月に行われていたが、現在では大晦日の晩、それぞれの集落の青年たちがなまはげに扮して、「泣く子はいねが一、親の言うこと聞かぬ子はいねが一」などと叫びながら地域の家々を巡る。男鹿の人々にとってなまはげは、怠け心を戒め、無病息災・田畑の実り・山の幸・海の幸をもたらす、年の節目にやってくる来訪神である。昭和53年に男鹿の「なまはげ」として重要民俗無形文化財に指定された。近年では、後継者不足によって行う地区が減少してきている。

真山

真山は男鹿のなまはげ発祥の地の一つとして古くから信仰の対象とされてきた。真山にはなまはげに触れることの施設が数多く立ち並んでいる。

①なまはげ館

なまはげ伝説がなぜ男鹿の地に残るのか、多くの貴重な資料が展示されている。なまはげの面、衣装は各地区によって異なっており、それが一同に展示されている。また、なまはげの体験コーナーも設置されており、なまはげの衣装を着ることも可能である。

TEL 0185-22-5050

開館時間 8時30分～17時（年中無休） 料金 大人 540円・小中高生 270円・

団体割引あり 伝承館との共通入館割引あり



②男鹿真山伝承館



なまはげの実演が行われ、家じゅうを暴れるなまはげを近くで見ることができ、その迫力を感じることができる。

TEL 0185-33-3033

開館時間 4月～11月/毎日 12月～3月/要問合せ料金 大人

756円・小中高生 540円 団体割引あり

社会科巡検 地震レポート

学籍番号 1517016 佐藤 拓斗

日本海中部地震は1983（昭和58）年5月26日11時59分、能代市の西方沖70kmで発生した地震である。地震の規模を表すマグニチュードは7.7で、秋田県や青森県深浦町で最大震度5を観測している。またこの地震により、北海道から九州にかけての日本海沿岸で津波が観測された。津波の第一波到達時刻は、深浦で12時7分、能代で12時24分、山形県酒田で12時42分等であった。

この地震・津波により死者104名、家屋の全半壊3049棟、船舶沈没・流出706隻等大きな被害が生じた。死者のうち100名は津波による犠牲であり、このうち秋田県で79名、青森県で17名が死亡している。能代港で35人が死亡したほか、秋田港や八森港など港湾施設で大きな被害が出て、漁船や沿岸部の建築物も大きな被害を受けた。

津波被害が大きくなった理由として、震源が能代沖100kmの海底であったにもかかわらず、波源域が大きかったために予想以上に津波の到達時間が短かったこと、津波に対する住民の意識が低く避難行動等に遅れがあったこと、警報伝達が充分でなかったこと、津波対策が充分でなかったこ

と等があげられる。また地震災害のもう一つの特徴として、砂地盤の液状化による建築物(特に家屋)被害が多かったことがあげられている。

・加茂青砂海岸

男鹿市の加茂青砂では、遠足で訪れていた北秋田郡合川町立合川南小学校の児童 13 人が津波により死亡した。男鹿市立加茂青砂小学校には、合川南小学校の慰霊碑が建立されている。



・男鹿水族館 GAO

男鹿市の男鹿水族館では、観光客のスイス人女性が津波にさらわれて死亡した。その後、記憶に留め、慰霊するために、水族館駐車場脇に像が建てられた。このほか男鹿では日本海中部地震津波慰霊の碑に波の高さが刻まれている。



○社会科巡検を終えて

・男鹿ジオパーク学習センターでの学習 ジオパークでは自然災害について考えさせられ、災害にまつわる資料をはじめ、実際に実験を行い、災害が起こる仕組みがわかり、事実理解だけでなく、授業づくりの手立てにもつながる体験ができた。他にもその地域ならではの地形の情報や、以前生じた被害についても知ることができ、防災教育や地理的分野への関心も高まったように感じられた。

・なまはげについての学習 なまはげ館では、短い時間でありながら、施設の方々のご協力おあり、貴重なお話に加え質疑応答など、充実した学習を行うことができた。なまはげは単なる伝統というだけではなく、怠惰な生活を戒めるといふ、子どもたちだけでなく、大人にも通ずる道徳的役割があった。なまはげ伝説のある赤神神社五社堂も訪れ、また、男鹿真山伝承館では、なまはげ体験を行うこともでき、とても多くの貴重な体験をすることができた。実際に足を運んで、体験したり取材したりすることで、社会科が教科横断的であり、子どもたちの学びを多方面に生かせる教科であることを実感した。

・大潟村干拓博物館での学習 大潟村干拓博物館では、大潟村が生まれた背景や、具体的にどのように干拓が行われたのか、大潟村ができた当時どのような生活だったのかなど、大潟村の生活に関するあらゆることについて学ぶことができた。大潟村という特殊な環境を、実際に見聞きし、学習したことで、知識が深まったことはもちろん、今後さらに学習していきたい、という意欲も増したように感じられ、非常に良い経験ができたと考えている。